

佐賀小学校

「人間を大事に」

「自他ともに大切にすることが出来る」

校長 宮地 由美

◆はじめに

今年度は、10名の新入生を迎え、児童数67名、学級数7(通常学級5、特別支援学級2)、教職員数14名でスタートしました。

学校教育目標は、中学校と同じく、「人間を大事に」自他ともに大切にすることが出来る」です。小中9年間を通して(保小中15年間を通して)さまざまな活動に取り組み、「ふるさとへの愛着と誇りを持ち、課題を見つめ解決しようとするコミュニケーションの一員としての自覚を持った人材」の育成に向け、地域の皆さんにもご協力いただきながら、今年度も取り組んでいます。連携(つながり)を意識した本校の取組を紹介します。

◆地域との連携(つながり)

「さがっ子まもり隊」が発足して3年目をむかえました。現在登録メンバーは27

名。朝の見守り、畑づくり、校庭の草引き、家庭科実習、読み聞かせ、生活科や総合的な学習の時間など、さまざまな場面で地域の方にご協力いただいています。



生活科や総合的な学習の時間には、「佐賀のひと・もの・こと」に触れ、課題を見つめ探究しています。その際、いろいろな場面で地域の皆さんにご協力いただき、皆さんからさまざまなことを学び、考え、自分たちの考えた課題を解決しようと取り組んでいます。

そのため、「○○したい」という子どもたちの思いに對し、たくさんの方に快くご協力いただいています。だからこそ、子どもたちは「感謝」の気持ちを強く持つようになりました。また、子どもたちからは「さがっ子まもり隊の皆さんや地域の皆さんは、私たちの心強い味方」という言葉が出てくるようになりました。

多くの方々との出会いを通して、人の優しさや温かさを学んでいる子どもたち。地域の皆さんには心より感謝しています。



これからも地域の方とふれあい、地域の方から学び、探究的な学びを通して、学びへの意欲を高めていくとともに、地域や地域の人々の役に立ちたい、貢献したいと思う子ども、ふるさとが大好きな子どもを育てていきたいと考えています。

◆保育所との連携(つながり)

保育所と子どもの姿を中心におき、連携推進を図っています。4月28日(金)には、第1回保小研修会を行いました。保育所の先生方に見守られ、スタートカリキュラムに基づいた授業を行いました。お世話になった先生方に見守られ、とてもうれしそうな顔が印象的でした。頑張る姿がたくさん見られた時間となりました。

今後ともこれまでの取組を継続し、改善しながら交流を重ねていきます。保育所での学びを小学校につなげ、スムーズな連携・接続となるよう推進を図っていきます。



◆中学校との連携(つながり)

中学校ともさまざまな連携を推進しています。

- 小中連携による特色ある教育課程の編成および実践
- 生活科・総合的な学習の時間を柱とした9年間のカリキュラム作成・実施および改善
- 小中連携した授業改善による、学力の定着および向上に向けた取組の推進
- 外国語活動・外国語科・体育科における教科担当・指導
- 学校運営協議会を活用し、特色ある学校づくりの推進

地域や保護者の方の声を学校教育に取り入れ、地域や社会のために自ら考え行動することのできる子どもたちを育てていくことを目指す。

的に取り組んでいます。また、今年度は、中学校の先生方に前述の教科を担当していただいています。これまでも、中学校の先生方に授業をしていただくことはありましたが、年間を通して担当していただくことは今年度が初めてです。児童の姿を中心におき、学習指導や児童支援を通じて、さらに小中の連携を強めていきます。

また、合同行事の実施や中学生による読み聞かせなども実施しており、6年生の中学校へのスムーズな移行となるよう取り組んでいます。

「学校は、勉強はもちろんですが、人と人がつながるところだと思います」。これは、学校運営協議会において、児童会の子どもが話した言葉です。子ども同士はもちろん、さまざまなつながりを大切に取り組んできたからこそ出た言葉だと思っています。これからも、連携(つながり)を大切に、「地域とともにある学校」をめざして取り組んでいきます。

入野小学校

生きるための「実力」を
身に付けた児童の育成

校長 黒田 令子

◆はじめに

今年度は、23名の新1年生を迎え、児童数134名でスタートしました。教職員数は20名です。

本校の学校教育目標は、昨年度から「生きるための『実力』を身に付けた児童の育成」としています。

児童が大人になったときの姿を見据え、自らの幸福の追求と社会への貢献ができる生きるための「実力」を身に付けさせるため、「今」、付けるべき資質・能力の育成に向け、「チーム入野小」として、家庭・地域との連携のもと、一丸となって取り組む学校をめざしています。

◆日々の授業から

今年度は、校内研究主題を「根拠を持ち目的に応じた書き表し方を工夫する力の育成」国語科『説明的文章』の授業づくりを通して」とし、国語科で身に付けた

力が他の教科や領域、実生活に結びつき児童自身の「実力」となるよう研究を進めています。特に、今年度は「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト事業における授業づくり講座の拠点校として、他校の教員も交えて教材研究会や授業研究会を行い授業力の向上をめざし、研究を続けます。

授業では、単元のはじめに児童とともにこの単元で付けたい力を確認し、どのように学習を進めていくのか計画していきます。児童が学習の見通しを持ち、自ら問いを持ちながら学びを進めることができ、根拠をもつて目的に応じた表現ができる力が付く授業となるよう教員同士、日々、学び合っています。

また、授業では、昨年度に引き続きICT機器も児童同士の考えの共有を行う場面や思考を深める場面などで日常的に使用しながらその効果的な活用についても研究を行っています。

◆運動会に向けた児童の姿から

5月21日(日)、青空のも

と運動会を開催することができました。

今年度の運動会も、児童が主体的に考え、意見を出し合い、自分たちで創り上げたと自覚できる運動会をめざし、取組を行ってきました。

なかでも全校児童を引っ張る大きな役割を果たすのが5・6年生からなる応援団です。

今年の応援団を決める際、赤組と白組、一方の応援団の希望者が定員より1名多くなりしました。その分、係の仕事の担当が1名足りなくなるという状況も起こってしまいました。応援団を希望したどの児童も、しっかりとした思いをもっています。

「さあ、どうするのがいいだろう」と、児童に投げかけて希望者の意見を聞く場を持ちました。児童が話し合い、出した結論は、「せっかくやりたい気持ちがある人が集まっているのだから、みんなでやろう。人数が足りない方の応援団に、もう1名入ってくれ人を探してはどうだろう。人数が足りなくなってしまう係

の仕事は、応援団に入った人が、兼ねてできると思う」

決めた通り、応援団にもう1名入ってくれるようみんな仲間話をして、係も2名の児童が手を挙げ、一人二役をこなすことになりました。

朝に夕に応援練習をし、どうやってそれぞれの組の児童をまとめ上げるかを話し合い、全校児童をリードする姿は、まさに大会スローガン「かがやけ！入野の力」そのものでした。

このように、本校では児童自身が課題について自ら考え、仲間とともに解決の方法を探り、見だし、行動していく力をあらゆる教



育活動を通して付けていきたいと考えています。



◆やみくも

生活や総合的な学習の時間でも、地域を学びの場として児童が、自ら課題を見つけ探究的な学習を行っています。昨年度も、地域の皆さんには、児童の設定した課題をもとにした情報収集や体験的な活動にたくさんご協力いただきました。心から感謝申し上げます。今年度も、各学年のテーマに沿って、探究的な学習を深めていく計画です。何卒、ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。